

シェルのエネルギーモデル (2)

角 和 昌 浩 (かくわ まさひろ)

木 原 正 樹 (きはら ま さ き) 株式会社フューチャーネス 代表 兼 シナリオプランナー

要約 前回から今回にわたって、シェルシナリオチームがシナリオの定量化に使っているエネルギーモデル「World Energy Model (略称：WEM)」について、ご紹介しています。WEMとは、シェルが独自に開発した、世界大のエネルギー需給を詳細にシミュレートする定量分析ツールであり、シェルシナリオのストーリーや内包するロジックを数字で補強する役割を持ちます。今回は WEM の歴史についてご紹介しました。次回は WEM の技術的詳細に踏み込みます。

1. ロンドンシェルセンターでの日々

本稿には、シェルが公開している WEM 関連文献に加え、筆者（木原）が 2014 年から 2017 年にかけて、英シェル社のシナリオチームにて勤務していた際のエネルギーチームの同僚、ヴィム・トーマス (Wim Thomas) 氏、マーティン・ヘイ (Martin Haigh) 氏への取材内容を盛り込んでいる。今回は固い技術的な内容が多いので、はじめに少し、ゆるいお話をしたいと思います。

私がいた当時、シェルシナリオチームはオランダのハーグと、英国ロンドンの 2 拠点に分かれており、ヴィムはハーグオフィス、マーティンと私はロンドンオフィス (London Shell Centre) に通っていた。コロナ禍前の当時、遠距離ミーティングは電話会議。対面の会議がほとんどで、互いのオフィスに毎週のように出張しあっていた。ロンドンとハーグ間は、ロンドンシティ空港とロッテルダムハーグ空港という二つの小さい都市空港を使うのが便利で、フライトの所要時間は 1 時間ほどでしかない。ハーグ空港の周辺はオランダらしいのどかな田園風景が広がるが、ロンドンシティ空港はテムズ川沿いのロンドン中心部。着陸が近づくと、カナリーワーフの高層ビル街が飛行機の窓から間近に見えてきて、その夜景をみるために窓際の席ばかり予約していた。

Shell Centre は、「South Bank」と呼ばれるウェストミンスターからテムズ川を渡った川の南岸地域、現在は大観覧車の London Eye 目当てに来る観光客でにぎわう場所に位置している。London Eye の隣には、Jubilee Garden という児童向け遊具のある公園があ

A gigantic polar bear during a protest outside Shell hq



@2015

図 Greenpeace による Shell Centre 前抗議活動① (Save the Arctic)

り、細い Belvedere Road を渡れば Shell Centre。私が Shell Centre で勤務していた頃は、チームのフロアが Shell Centre の 3F にあり、窓越しに Jubilee Garden から流れるお子様向けの音楽 (スーパーマンのテーマ等の明るい音楽) の音楽が聞こえてきました。

そんな観光地間近な Shell Centre ですが、しばしば環境アクティビストのターゲットとなっており、大きなシロクマが置かれたり、アクティビストが入口を塞いだりします。

2015 年のことですが、私が Shell Centre で勤務していると、いつものスーパーマンのテーマではなく、クラシック音楽が外から流れてきました。その日、Greenpeace がシェルによる北極海開発に抗議し、クラシック演奏家を引き連れて「Requiem for Arctic Ice」を、Shell Centre 入口で演奏していたのです。